

サビエル「十字架上のキリストへの祈り」

※当時のキリシタンの信仰は「罪を犯すと地獄におち善いことを行くと天国に行く」と教えられ「地獄への恐れと天国へのあこがれ」を強く持っていた。この「サビエルの祈り」と呼ばれる祈りはその「因果応報」をのりこえて「無償の愛」を祈り求めている。

祈り

主よ、私があなただを愛するのはあなたが天国を約束されたからではありません。
あなたにそむかないのは、地獄がおそろしいからではありません。

主よ、私をひきつけるのはあなたご自身です。私の心を揺り動かすのは十字架につけられ
侮辱をお受けになったあなたのお姿です。あなたの傷ついたお体です。
あなたの受けられた辱めと死です。そうです。主よ、あなたの愛が私を揺り動かすのです。
ですから、たとえ天国がなくても主よ、私はあなたを愛しましょう。
たとえ、地獄がなくても私はあなたを畏れます。

あなたが何もくださらなくても、私はあなたを愛します。
望みが何も叶わなくても、私の愛は変わることがありません。

次の質問に考えてください。

- ① 「悪いことをした人は地獄へおち、善いことをした人は天国にあげられる」という考え方はキリスト教だけではなく仏教にもイスラム教にもある考えである。このことについてどう思いますか？自分の意見を述べてください。字数は自由ですが、50分以内やるので、ちゃんと書いてください。

- ② そして、このサビエルの祈りを読んで何を感じ、何を考えるか？書いてください。字数は自由ですが、50分以内でやるので、ちゃんと書いてください。